

講演抄録

近年、デジタルテクノロジーが急速に進歩しており、作業時間短縮、コスト削減、作業効率の向上が期待されている。最近の多くの学术论文でも、口腔内デジタル印象装置、**CAD/CAM**により作製された補綴物（多くは単冠）の精度・

予後は好意的に評価されており、印象材や石膏模型を使わない歯科環境の本格的な到来を予感させる。**CAD/CAM**の技術により作製可能になった材料の代表例としてジルコニアが挙げられる。ジルコニアは、白くて硬いその高い物性から天然歯はもちろんの事、インプラント補綴にも幅広く使用されるようになった。しかし、まだ長期的な研究結果が出ておらず、その特徴を理解し慎重に使用しなければならない。今回、私が考えるジルコニアの臨床応用を提示し、その可能性を考察したい。